

人間総合科学大学大学院

人間総合科学研究科

心身健康科学専攻 通信制

修士課程／博士後期課程

健康栄養科学専攻

修士課程



人間総合科学大学大学院

公式ホームページ



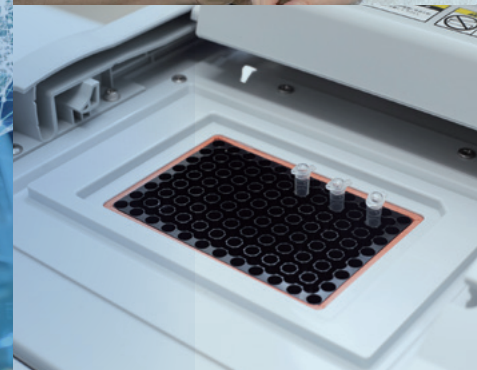
Graduate School of the University of
Human Arts and Sciences 2027



ストレスを科学する
「こころ」の反応
×
「からだ」の反応



自立した
研究者への道



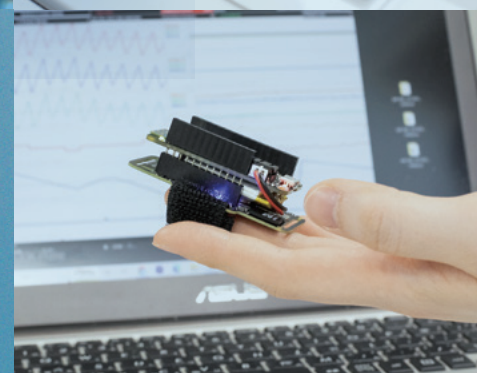
人間総合科学研究科の研究
「より良く生きる知恵」を創出し、
社会に還元する

心と身体の有機的関連性すなわち心身相関の仕組みを探究し、
人間の心身の健康に寄与する「より良く生きる知恵」を創出して社会に還元する。
この「心身健康科学」という学問の深化・発展に、全専攻・課程で取り組んでいます。

心身健康科学
心身相関の科学
学際的・統合的科学

心身健康科学
専攻

健康栄養科学
専攻



オンラインを多用した
負担の少ない
学修システム

理解を深める
スクーリング授業

社会人学生の
幅広いテーマ設定に対応

文献研究(修士)、質問紙調査研究、実験研究など

豊かな研究環境

人間総合科学 心身健康科学研究所

人間総合科学心身健康科学研究所

●生体機能観察センター

●食と健康科学センター



研究所では大学院生の研究指導のサポートを行っています。
研究所では、心身健康科学専攻、健康栄養科学専攻との共同研究も行なっています。

多様な研究アプローチ

神経系評価
実験研究

質問紙
調査研究

文献既出
データの
統合研究

日本心身健康科学会

日本心身健康科学会と連携して、
大学院生・修士生の研究環境をサポートしています。

- 学術集会で研究成果発表
- 学術誌「心身健康科学」で論文発表
- 心身健康科学領域の研究成果を学ぶ場
- 研究成果の社会への還元を実現する場として
人間総合科学大学と連携して称号認定を実施
・称号認定:心身健康アドバイザー



国際技術標準規格
オープンバッジ(デジタル履修証明書)を取得



人間に関わる多様で複雑な問題に対し、 統合的・先進的な研究アプローチを

最近、情報技術の加速度的な発展や、AI (Artificial Intelligence) やIoT (Internet of Things) の登場が、ポストヒューマンの時代を創るかもしれないという予測がささやかれています。このような時代を迎えるにあたって、今、「人間」の本質をより学際的・統合的に見直す必要に迫られているのではないのでしょうか。

本学の特色であり全学のプログラムの核に据えている「心身健康科学」は、人間に関わる多様で複雑な問題に対し、統合的・先進的なアプローチをしています。

人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科では、社会で指導的な役割や先駆的な領域を果たす人材を養成しています。心身健康科学専攻(修士・博士後期課程)では、心と身体の有機的関連性の探究から、心身の健康に関する総合的な研究を行っています。また、健康栄養科学専攻(修士課程)では「心身健康科学」をベースに、人間の心身両面の健康と栄養・食の関わりを科学的、総合的な視点から追究しています。

AIやIoTが話題になっている今、これからの生涯健康や持続可能性を目指す人類にとって、心身相関の科学の重要性がより一層認識されるでしょう。



学校法人 早稲田医療学園 理事長
人間総合科学大学 学長

久住 眞理

建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。
しかも、有史以来、進化発展を続けている。
21世紀を力強く生きるためには、新しい展望と視座に立って、
一人一人がしっかりした価値観を持ち、
未来を切り拓く自己決定能力と勇気を持たなければならない。
ここに、人間を「こころ」「からだ」「文化・社会」の面から追求し、
学際的に総合して科学的に探究する必要がある。
人間総合科学大学を創設し、あらたな学問の追求と統合により、
真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、
活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む。

2000年4月
創立者 久住 眞理

大学・研究科の 教育研究上の目的

- 人間総合科学大学
一よりよく生きるための知恵(knowledge for well-being)の創出—
人間総合科学大学は、教育基本法及び建学の精神に基づき、深く人間を理解し、自立と共生の心を培い、時代を切り拓く新しい展望と視座に立って、わが国の発展、国際社会に貢献しうる創造性豊かな活力あふれる人材の育成を目的とする。
- 人間総合科学大学大学院
人間総合科学研究科
人間総合科学大学大学院は、人間総合科学大学の教育の目的に則り、「人間」をさらに学際的・統合的に追究し、より深い専門的知識を持ち研究できる人材を育成することを目的とする。

アドミッションポリシー

【人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科】

建学の精神と心身健康科学の特徴に理解と共感を持ち、以下の点を有した人材を受け入れる

1. 自ら主体的に学修、研究をする強い意志を持つ人
2. 社会の健康や幸福の実現に貢献する創造的かつ挑戦的な研究を遂行する決意を持つ人
3. 柔軟な姿勢で粘り強く学修と研究を継続する意志を持つ人

大学院 研究科長・専攻長あいさつ



人間総合科学研究科 研究科長
松居 靖久

心身相関の問いを、自ら解決する大学院

大学院人間総合科学研究科では、「こころ」と「からだ」が影響を及ぼし合う心身相関のしくみについての学びと研究を通して、わたしたちの健康で幸福な生活に貢献できる人材を育てることを目標にしています。そのために、実社会で活躍する社会人など、多様な背景を持つ学生1人1人が自ら考え研究を推進することを、様々な専門分野の教員がサポートします。みなさんの「問い」を出発点に、社会に貢献できる研究成果を目指しましょう。



心身健康科学専攻
専攻長

鍵谷 方子

心身相関の視点で 学際的・統合的に探究

心身健康科学専攻は、「こころ」と「からだ」の有機的関連を軸に、人々の心身の健康を多角的に考究し、よりよく生きるための知恵を創出することを目指します。多様な背景を持つ社会人が集い、実生活や社会に活かせる身近な課題をテーマに心身健康科学の視点で研究を進めています。学際的かつ統合的に探究する研究力を養うことのできる本専攻で、一緒に社会へつなぐ知を創出しましょう。



健康栄養科学専攻
専攻長

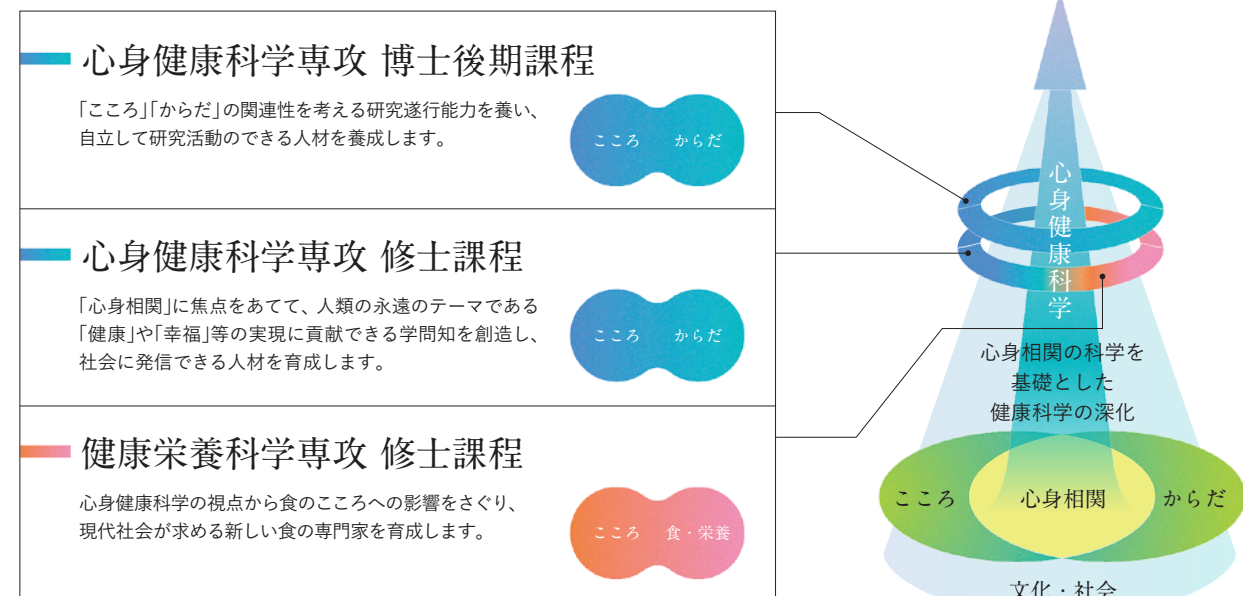
時光 一郎

食と「こころ」「からだ」との 関係を探る

心身健康科学をベースに「こころ」と「からだ」の健康に貢献する「食」について総合的に学ぶのが健康栄養科学専攻です。2021年度より、新たに「ヘルスフードサイエンスプログラム」を立ち上げました。栄養指導、教育更には調理の現場で活躍されている方のみならず、食品開発や食品流通に従事しておられる社会人の方々にも門戸を広げました。新しい食の可能性について一緒に探索していきましょう。

人間総合科学研究科の研究領域

人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科



関連組織

- 人間総合科学 心身健康科学研究所 生体機能観察センター／食と健康科学センター
- 日本心身健康科学会

心身健康科学とは？

- 1) 人間の「こころ」と「からだ」の有機的関連性を対象とした科学
- 2) 心身相関が示す諸現象を科学的、論理的、実証的に探究する学問
- 3) 人間の健康を総体的に探究し、統合的に考究する健康科学

心身健康科学専攻

学位：修士（心身健康科学）／博士（心身健康科学）

修士課程〔定員：30名〕

博士後期課程〔定員：9名〕

通信制



研究領域は「心身健康科学」。

心身相関をキーコンセプトとして

統合理論を構築する新しい学際的研究分野です。

心身健康科学は、今の時代に“よりよく生きる”ことを希求するために、人間の「こころ」と「からだ」の有機的関連性を軸にして、「生命」「人間」「健康」「精神」について学際横断的に研究し、その統合理論の構築や科学的な解明を目指す研究領域です。これまでの健康科学が扱ってきた領域に加えて、生命科学、行動科学、ストレス科学、心身医学、基礎医学、生命倫理学、文明科学など多様な学問領域を横断的・総合的に統合し、その中から人間の「こころ」と「からだ」の相関性、および生命現象のメカニズムの原則と働きを科学的に解明して、人間の健康の保持増進に応用することを目指します。

専攻の特徴

1 通信制大学院トップクラスの修了率

充実した学修環境で学位取得をバックアップします。修士552名、博士65名（2025年度までの実績）が学位を取得し、開設以来高い修了率を維持しています。



2 「こころ」と「からだ」のつながりを探究

社会や文化を踏まえ、こころとからだの両側面から総合的な人間理解に向けてアプローチします。そして、心身健康科学の視点から学際的、横断的に研究し、“よりよく生きるための知恵”を創出します。

3 オンライン中心の学修環境

本学専用のポータルサイトで展開されるeラーニングシステムにより、パソコン・スマートフォン・タブレットを用いて、いつでもどこでも学修に取り組むことができる科目を多数開講しています。※必修科目を含む一部科目では対面スクーリングを実施。

4 社会人に配慮した研究スタイル

修士課程では研究の最終成果物として新知見を探究する「修士論文」の他に、社会生活に見出される特定課題をテーマとして扱う「特定課題研究報告書」を選択することができます。

5 すべての教員がバックアップサポート

ポータルサイトを介した質問や中間発表会などの機会を通して、学修・研究内容に対してすべての教員の助言とサポートを受けることができます。

● アドミッションポリシー

心身健康科学専攻 修士課程では、次のような資質を有した方を受け入れる

1. 心身健康科学の理念を理解している人
2. 自らの社会的活動や専門領域と心身相関の科学を統合する意欲と決意を持つ人
3. 学際的かつ統合的な学修と研究活動を行う意欲を持つ人
4. 学修や研究の経験を社会に還元し、人々の健康と幸福の実現に貢献する志を持つ人

心身健康科学専攻 博士後期課程では、次のような資質を有した方を受け入れる

1. 心身健康科学の理念を理解している人
2. 心身健康科学において新規的かつ独創的な研究を遂行する意欲と決意を持つ人
3. 学際的かつ統合的な研究を行う意欲を持つ人
4. 研究成果を科学、社会に還元するために粘り強く研究課題に取り組み挑戦する志を持つ人

● 教員と主な研究分野

学際的に研究を行えるよう、学生の研究内容に合わせ各分野の教員が指導。

研究科長 教授 松居 靖久	心身健康科学、分子生物学、発生生物学
専攻長 教授 鍵谷 方子	心身健康科学、自律神経生理学
教授 川村 春美	心身健康科学、色彩工学、画像工学
教授 北原 圭	心身健康科学、微生物学、感染症研究
教授 小柴 満美子	心身健康科学、精神神経発達医工学
教授 中山 和久	心身健康科学、民俗学、文化人類学
教授 矢島 孔明	心身健康科学、細胞分子生物学
教授 吉田 浩子	心身健康科学、生命倫理、霊長類学
講師 熊谷 勝義	心身健康科学、遺伝子工学、生物学、応用動物学
講師 鈴木 康弘	心身健康科学、臨床心理学、健康・医療心理学、学校メンタルヘルス、産業精神衛生学
講師 渡辺 久美	心身健康科学、健康科学、運動科学
助教 矢澤 順根	社会心理学

※2026年4月現在

通学制

（働きながら学べるコース）



健康栄養科学専攻

学位：修士（健康栄養科学）

修士課程〔定員：5名〕

人間の心身両面の健康と食・栄養とのかかわりを

科学的かつ統合的視点から追究します。

「超高齢化社会」そして「超高ストレス社会」を迎えた現代において、新たな保健医療サービスの確立は必須課題であります。そのための専門的な知識とスキルを修得すると共に、心身健康科学の視点から「人間」の深い理解を通して、心身両面の健康保持・増進を栄養・食生活の面から導くことに貢献できる人材養成を目指します。

専攻の特徴

1 「食」と「こころ」の関係解析

心理的および生理的評価手法を幅広く修得し、「食」の「こころ」に及ぼす影響を詳細に検討できる能力を身に付けます。得られた成果から、新しい食素材やメニュー、更には調理・加工法等の提案を目指します。

2 AI・データサイエンスの活用

著しく発展しているAI・データサイエンスの知識およびスキルを身に付けます。それらにより単に実験・調査データ解析にとどまらず、食の新しい評価軸や機能の提案に繋げる研究を目指します。

3 「おいしさ」にこだわった「食」と「健康」の研究

「食」の持つ機能として「おいしさ」に着目します。「おいしさ」発現の機構を、「食」と「人間」の両面から追究していきます。得られた成果から、新しいコミュニケーションや教育・指導手法等の提案を目指します。

4 教育現場や企業で働く「社会人」にも 広く門戸を開く

土・日曜日を利用した対面授業やネット授業により、「社会人」にも入学の門戸を広げます。現在の業務において直面している課題を研究テーマとして取り上げ、科学的に幅広く検討し解決に導くことも可能です。

5 少人数のアットホームな環境

ポータルサイトを介した質問や合同ディスカッションなどの機会を通して、学修・研究内容について全ての教員の助言とサポートを受けることができます。

● アドミッションポリシー

健康栄養科学専攻 修士課程では、次のような資質を有した方を受け入れる

1. 人間総合科学・心身健康科学の理念を理解している人
2. 自らの社会的活動や専門領域と、心身相関の科学及び健康栄養の科学を統合する意欲と決意を持つ人
3. 学際的かつ統合的な学修と研究活動を行う意欲を持つ人
4. 学修や研究の経験を社会に還元し、人々の健康と幸福の実現に貢献する志を持つ人

● 教員と主な研究分野

学際的に研究を行えるよう、学生の研究内容に合わせ各分野の教員が指導。

研究科長 教授 松居 靖久	心身健康科学、分子生物学、発生生物学
専攻長 教授 時光 一郎	健康栄養科学、食品機能学、生活習慣病学
教授 梅國 智子	健康栄養科学、調理科学、食育
教授 玉木 雅子	健康栄養科学、食品科学
准教授 秋山 佳代	健康栄養科学、栄養教育論
准教授 山中 珠美	健康栄養科学、社会環境医学、給食経営管理
助教 栗 彩子	健康栄養科学、食品微生物学

※2026年4月現在

心身健康科学専攻【通信制】 博士後期課程

自立した研究者の育成

「こころ」と「からだ」の有機的相关性を支える法則性について深い学識と高度な研究遂行能力を養い、学際的・統合的な視点と姿勢を持って自立して研究活動のできる人材と、社会において先駆的な領域を開拓できる人材を養成します。

カリキュラム

1年次には、必修科目である「心身健康科学特殊講義」を履修し、心身健康科学における心身相関の科学、健康科学、統合・学際領域という研究深化の視点を養うとともに、院生の研究テーマにつなげる端緒を導きます。「心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はWeb会議システムを使用するセミナーです。選択科目は10科目開設され、各自の研究テーマに応じ、科目を履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
コア科目(必修)	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2
必修科目	心身健康科学特殊講義	1	前期	T・S	2
	心身健康科学特殊演習Ⅰ	1	通年	EX	2
	心身健康科学特殊演習Ⅱ	2	通年	EX	2
	心身健康科学特殊演習Ⅲ	3	通年	EX	2
選択科目 (2単位以上)	健康増進科学特殊講義	1・2	前期	T・S	2
	科学哲学特講	1・2	後期	T・S	3
	心身医学特論	1・2	前期	T	2
	生命文化特講	1・2	前期	M	3
	認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
	健康栄養学特殊講義	1・2	前期	T	2
	ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
	発達心理学特論	1・2	後期	T	2
	老年心理学特論	1・2	前期	T	2
	データサイエンス研究法入門	1・2	後期	S	2
研究指導 (必修)	心身健康科学特別研究指導Ⅰ	1	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅱ	2	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅲ	3	通年	R	2
修了要件	休学、停学期間を除いて3年以上在学し、次のとおり授業科目について必修科目を含め18単位以上を修得し、かつ博士論文の審査を通過し最終試験に合格すること。 1 必修科目[10単位] 2 選択科目[2単位以上] 3 研究指導科目[6単位]				

修了課程との共通科目

T:テキスト履修 M:メディア履修 T・S:テキスト履修+スクーリング

EX:演習(Web会議システム) R:オンライン指導+面接指導

※カリキュラムは2026年4月現在のものであり、変更する場合があります。



授業PICK UP

必修 心身健康科学特殊講義

心身健康科学という専門領域の特徴を活かした研究課題と計画を考究し、心身相関の現象を観察する上で必要となる実験・調査研究方法と解析手法を理解し活用できるよう学修を進めます。そして、心身健康科学の立場から仮説を立てて実験・調査研究のモデルを立案する能力を養います。

必修 心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

院生と教員によるインターネットを利用したセミナー(Web会議)です。博士レベルの心身健康科学研究を実施するために必要となる独創的かつ科学的な研究遂行能力を修得することを目的とし、Ⅰでは自らの研究遂行に必要な国内外の文献の読解力向上と文献検索力、問題発見能力、プレゼンテーション能力を養います。Ⅱ・Ⅲでは院生各自の研究計画や進捗状況を発表し、院生と教員が一緒になってディスカッションを行います。



カリキュラムの詳細はWebシラバスをご参照ください
https://syllabus-cp.human.ac.jp/syllabus_view/

入学から修了まで

● コースワーク

テキスト履修(T)

単位を修得するために「自宅学修→課題レポート提出および他の院生とのオンラインでの意見交換→科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場で受験する形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。

- レポート提出(複数回)
- オンラインでの意見交換



- 科目修了試験



合格後 単位認定

メディア履修(M)

テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD(Video On Demand)により学修を進めます。

- レポート提出(複数回)
- オンラインでの意見交換
- VODによるビデオ履修



- 科目修了試験



合格後 単位認定

テキスト履修+スクーリング履修(T・S)

心身健康科学における心身相関の科学や健康科学について、学際的・統合的に考察する視点を養うため、必修科目と選択科目の一部でスクーリング(対面式授業)が実施されています。

- レポート提出(複数回)
- オンラインでの意見交換



- 対面式授業



- 科目修了試験



合格後 単位認定

演習(EX)

演習は、大学院生と全教員を交えたWeb会議システム[※](インターネットを利用)を使ったセミナーです。演習授業に参加し、総合評価(プレゼンテーションと質疑応答の内容)で合格基準に達すると単位が認定されます。

※1年次は一部対面で実施する回があります。

- 事前学習
- レジュメ・スライド作成



- セミナー

(Web会議システムを利用)



合格後 単位認定

● リサーチワーク

研究指導(R)

博士後期課程では、月1回の個別面接指導のほか、必要に応じて対面での指導や、オンラインでの個別指導が随時実施されます。

1年次

- 指導教員決定(※)



- 研究テーマの決定



- 研究中間報告

※研究指導教員・副指導教員の決定

2年次

- 研究中間報告会



- 博士論文計画書



- 博士論文中間報告

3年次

- 博士論文中間報告会



- 博士論文審査申請候補者報告会



- 博士論文審査申請前報告会



- 博士論文提出



- 論文審査 ● 口頭試問



- 公開発表会

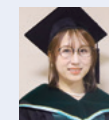
※各報告会・発表会等は対面で実施されます。

学位

博士
(心身健康科学)

修了生の声

松本 紗知恵さん
(2026年3月修了)



博士後期課程で深めた教育者・研究者としての基盤

◀ 詳細はこちら

研究テーマ例

博士論文

- 学校教育集団における世代間差異と職業性ストレスの関連—児童・生徒および保護者との関係性を起点とする実証分析から—
- 病棟勤務女性看護師の職場風土の認識と職業性ストレスの関連
- 主観的疲労感の変化と運動系列学習との関連

- 冷水暴露ストレスによる反応と甘味感受性の間にみられる心身相関の研究
- 振動刺激による運動錯覚と筋放電活動の関連及びタッチングによる変化
- マインドフルネス瞑想が染色体末端部に及ぼす影響と主観的幸福感との関連—成人男性を対象とした実験研究—
- 森林浴バーチャルリアリティ動画の視聴による気分変化が歩行動作に及ぼす影響
- 家族介護規範意識と心身の健康の関連

- 若年層健常人の幸福感や心理状態への魚油摂取の影響
- 足底知覚トレーニングが足底の二点識別覚および注意機能に及ぼす影響
- マタニティヨーガが妊娠褥婦に及ぼす影響—心身健康科学の視点から—
- 小児慢性疾患を抱える若年者の小児期体験に関わる心身相関
- 慢性腰痛の表面筋電図の特徴と心理社会的要因の関係

健康栄養科学専攻【通学制】

修士課程

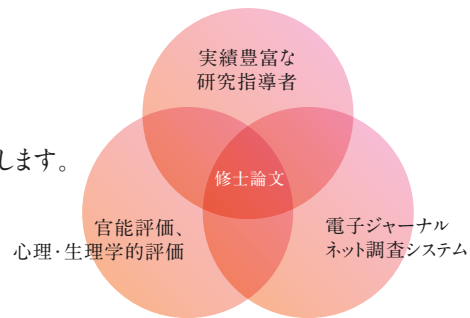
働きながら学べるコース

休日を活用した対面授業とネット履修により
「社会人」にも入学の門戸を広げます。

幅広い知識を持つ「食」の専門家を育成します。

食関連教育現場や食品開発の第一線で働く方のキャリアアップを支援します。

- 「心身健康科学」を基盤とした「食」と「こころ」との関係解析
- おいしさにこだわった「食」と「健康」に関する研究
- AI・データサイエンスを活用した食の新しい評価軸の提案



カリキュラム

健康栄養科学専攻においては、食関連教育現場や食品開発の第一線で働く方のキャリアアップに役立つ必修科目を開設しています。

すべて必修科目です。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
コア科目	心身健康科学特講	1	前期	N・S	2
	心身健康栄養学特論	1	前期	N・S	2
	データサイエンス	1	後期	N・S	2
健康科学領域	分子美食学・調理学	2	前期	N・S	2
	ストレスと健康特講	2	後期	N・S	2
	メンタルヘルス学特講	1	後期	N・S	2
健康食品科学領域	心理・生理評価学特講	2	前期	N・S	2
	分子疫学特講	2	前期	N・S	2
	分子栄養学特講	2	後期	N・S	2
研究指導	官能評価学特講	1	後期	N・S	2
	食品機能学特講	1	前期	N・S	2
	食品ビジネス学特講	2	前期	N・S	2
研究指導	ヘルスフードサイエンス研究Ⅰ	1	通年	N・S	4
	ヘルスフードサイエンス研究Ⅱ	2	通年	N・S	4
修了要件	全科目が必修項目になります。休学、停学期間を除いて2年以上在学し、全ての授業科目の単位を修得し、かつ修士論文または特定の課題についての研究成果の審査を通過し最終試験に合格すること。				

心身健康科学専攻との共通科目

N・S: ネット履修+スクーリング

※カリキュラムは2026年4月現在のものであり、変更する場合があります。



カリキュラムの詳細はWebシラバスをご参照ください
https://syllabus-cp.human.ac.jp/syllabus_view/



授業PICK UP

必修 心身健康栄養学特論

「食」の「こころ」に対する影響についての知見が蓄積されつつあります。本科目では、新しい研究領域である心身健康栄養学のトピックスを紹介しながら、学術研究のポイントを的確に見抜く能力を養います。更には、心身健康栄養科学の視点から修士論文や報告書の内容を見直し、新たに研究計画を立案する能力も修得します。

必修 分子美食学・調理学

本科目では「おいしさ」を心身健康科学の視点から深く探究します。更に、科学的根拠に基づく「分子調理学」と「フードテック」の最新技術を踏まえ、新しい研究領域である分子美食学の最新知見を修得します。最終的には、分子美食学の実践を目指した応用展開に貢献できる能力を養います。

必修 分子栄養学特論

分子レベルでの栄養成分の役割を明らかにする科目です。最先端の「栄養学」の理解のために必要な栄養成分の生体内での代謝、栄養成分の遺伝子への作用、更には栄養成分間の相互作用等をわかりやすく説明します。最終的には、機能性食品の開発やテイラーメイド型食生活の提案に活用できる能力を養います。

必修 官能評価学特講

官能評価は人間の「感性」を計測する手法です。食品を対象とする場合は、風味、外観、物性などの食品特性を人間の五感(視覚、嗅覚、味覚、触覚、聴覚)を用いて評価することになります。実際の評価では、評価者の選定、評価手法の選択、評価環境の整備等が大きな課題になってきます。官能評価の基礎を修得し、実際の評価現場を担える人材を養成します。

入学から修了まで

ネット履修+スクーリング履修(N・S)

すべての科目は、インターネットを活用したネット履修に加えて、対面またはオンラインでの双方向のスクーリング講義を履修します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

- レポート提出(複数回)
- オンラインでの意見交換

+

- 対面またはオンラインでの双方向のスクーリング講義

▼

- 科目修了試験

▼

合格後 単位認定

- リサーチワーク

研究指導

修士課程では、年間5回(2年間で10回)の面接指導(合同ディスカッション時を含む)のほか、中間報告会の発表などを通して修士論文または特定課題研究報告書を完成させます。

1年次

- 指導教員決定

▼

- 研究テーマの決定

▼

- 研究中間報告

2年次

- 研究中間報告会

▼

- 修士論文または特定課題研究報告書の選択

▼

- 研究成果提出

▼

- 審査
- 口頭試問

▼

- 研究発表会

- 修了

学位

修士

(健康栄養科学)

修了生の声

島山 光さん
(2026年3月修了)



栄養と心身の健康の結びつきを学べました

▲ 詳細はこちら

研究テーマ例

修士論文

- 美味しさにおける色彩イメージの影響解析
- コロナ禍における高校生の食行動、精神的回復力について
- スチームコンベクションオープンによる豚

ヒレ肉の簡便な軟化方法の検討

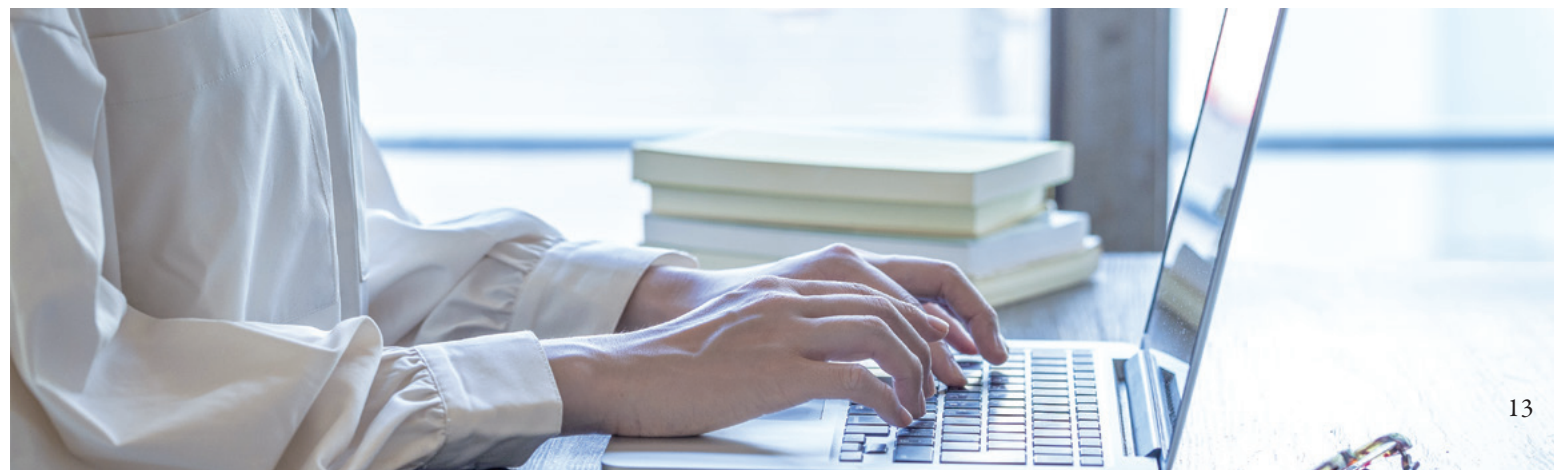
- 定年退職前の陸上自衛官のストレス、精神的回復力及び食行動の調査
- 魚油とココナッツオイルの併用が神経ペプチド発現および糖・脂質代謝に与える影響
- 特定保健指導における成功例・非成功例の特徴—対象者の行動を変える特定保健

指導の確立に向けて—

- 機能性成分 GABA のストレス低減効果の検討

特定課題研究報告書

- 脂肪味感受性と肥満との関係
- 血管内皮機能に対するポリフェノール類の影響についての研究



詳しくはホームページをご参照ください

<https://www.human.ac.jp/graduate-school/major/hn/>



人々の健康と幸福を支援する
人材育成が私たちの目的です。

本学園は今日に至るまで一貫して「人々の健康と幸福を支援する人材の育成」を目的として歩みを進めてきました。「真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む」という建学の精神のもと、教育研究を発展させ、多くの医療職者をはじめ健康支援業務に携わる人々の生涯の学習の場を築いています。これからも社会のニーズに対応しつつ、保健医療福祉・食・栄養分野に貢献する人材の育成に努めてまいります。

沿革

1953年	東京カイロプラクティック学院の創設〈開設学科〉◎本科 ◎師範科
1972年	早稲田鍼灸専門学校に改称 〈開設学科〉◎東洋医療鍼灸学科 1991年4月 義肢装具学科を開設し、1993年 早稲田医療技術専門学校へ
1993年	早稲田医療技術専門学校を開学 チーム医療を担う人材の育成 〈開設学科〉◎看護学科 ◎理学療法学科 ◎作業療法学科 ◎義肢装具学科
2000年	人間総合科学大学を開学 人間科学部 人間科学科(現:心身健康科学科)を開設
2004年	人間総合科学大学大学院を開設 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 修士課程を開設
2005年	人間総合科学大学 人間科学部 健康栄養学科を開設
2007年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 博士後期課程を開設 早稲田医療技術専門学校 保健学科を開設
2009年	早稲田医療専門学校を人間総合科学大学鍼灸医療専門学校に校名改称 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 健康栄養科学専攻 修士課程を開設
2011年	人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科、リハビリテーション学科(理学療法学専攻／義肢装具学専攻)を開設
2013年	学園創立60周年
2016年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程を開設(2022年3月閉鎖)
2017年	人間総合科学大学 人間科学部 ヘルスフードサイエンス学科を開設
2019年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻に健康情報マネジメント養成プログラムを開設
2023年	学園創立70周年
2026年	人間総合科学大学 人間科学部 心身健康科学科(通学課程)を開設



蓮田キャンパス



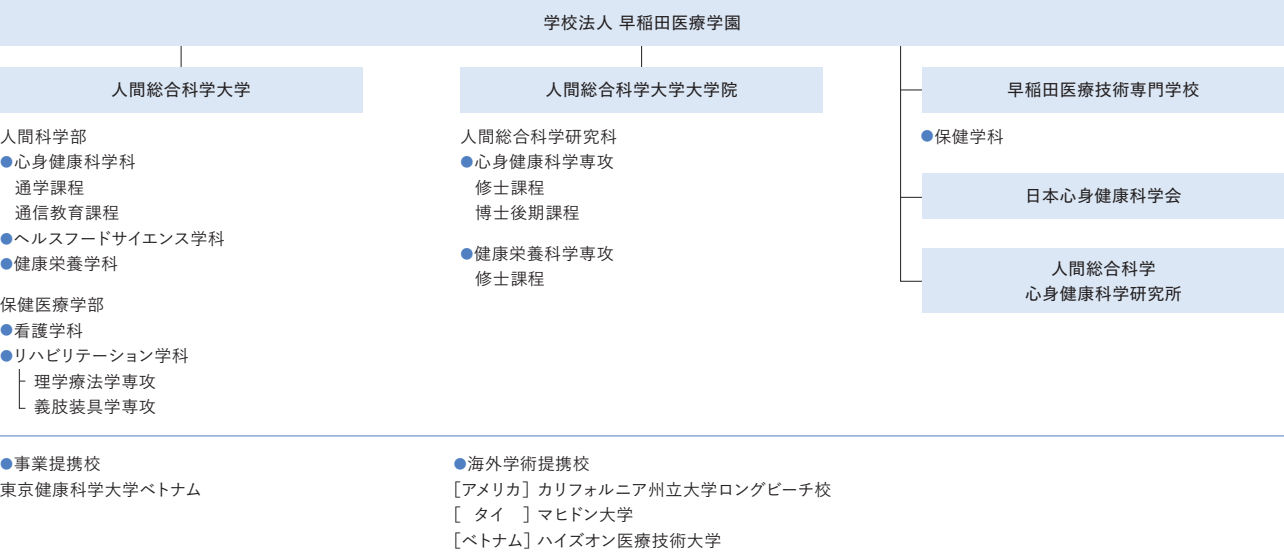
東京サテライト

アクセス

- 蓮田キャンパス
〒339-8539 埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288
JR 宇都宮線蓮田駅東口から徒歩13分
- 東京サテライト
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3-18-4
JR 山手線・西武新宿線・地下鉄東西線高田馬場駅から徒歩13分
もしくは地下鉄副都心線西早稲田駅から徒歩8分



組織図



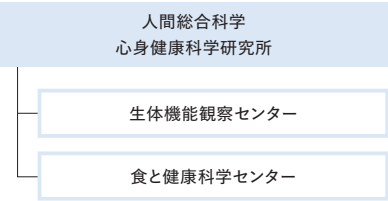
人間総合科学 心身健康科学研究所

本研究所では、人間を取り巻く環境の変化(刺激)が脳、自律神経、運動神経を介してこころやからだ、さらには行動にどのような影響を及ぼすのかを研究・探究しています。

本研究所では、人間総合科学、心身健康科学の領域における先端的研究を行っています。本研究所のスタッフは、得られた成果を学術団体などを通して国内外に発信するだけでなく、教材の開発や教育の場につなげて広く教え伝えています。また、心身健康科学に関わる教育プログラムを改善することや進展させることにも努めています。くわえて本研究所は、大学院教育との連携や日本心身健康科学会との共同研究等を図る場でもあり、スタッフや大学院生が中心となって、心身の相関を科学的に解明する実験研究や、地域や職場、学校、家庭をフィールドとする調査研究も実施しています。したがって本研究所は、心身相関の科学および心身健康科学の学問の発展をリードする重要な拠点として機能し、学問の開拓と普及に寄与しています。

研究所の主な活動

- 大学院(心身健康科学専攻、健康栄養科学専攻)との共同研究、研究指導サポート
- 日本心身健康科学会 学会事務、機関紙「心身健康科学」の編集、発刊
- 心身健康科学サイエンスカフェの運営
- 企業等の委託研究
- 教育機関のカリキュラム、教材開発のサポート
- 学内STEAM教育の全学的・横断的視点からの運用サポート、検証、改善提案
- 心身健康科学を基にしたSTEAM教育の実施、出張授業、講演、取材対応など
- 心身健康科学の学問的なリードオフ



お問い合わせ・資料請求

人間総合科学大学大学院
人間総合科学研究科

TEL 048-749-6111(日曜・祝祭日を除く 9:00~17:00)
FAX 048-749-6110 e-mail graduate@human.ac.jp
https://www.human.ac.jp/graduate-school/

資料請求・ダウンロードは
こちらからでもできます

